

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 8 月 20 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800370		
法人名	有限会社 やまさき		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ		
所在地	長崎県松浦市志佐町浦免206番地		
自己評価作成日	平成23年8月15日	評価結果市町受理日	平成23年10月17日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成23年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平屋である2つのユニットを遮る壁はなく、入居者・職員が共に自由に往来ができる事で、交流の幅が広がる。</p> <p>提携医療機関との医療連携体制や協力医療機関(内科・歯科)からの医師の往診を実施する事で入居者の健康管理に努めている。</p> <p>スプリンクラーや自動体外式除細動器AED等の設備面の充実と共に、随時研修・勉強会を受講する事で、職員の資質向上に努めている。</p> <p>ホームヘルパー2級の施設実習や近隣の中学校・高校の課外活動の受け入れ及び指導に協力させて頂いている。</p> <p>様々なボランティア団体(日本舞踊等)に慰問して頂き、入居者の方々にできるだけ楽しい入居生活を送って頂ける様取り組んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

2 ユニットを開放し職員、利用者が自由に行き来し和気藹々な雰囲気である。リビング部分は吹き抜けで天窓からの採光は申し分なく明るく解放的な空間である。利用者の意思を尊重し入浴、食事以外は無理強いしない支援を心がけ自由な生活を送っていただいている。また、助け合い、認め合い、一人一人が主役となれる場所をモットーに職員の入れ替わりも少なく、働きやすい職場である。日勤者と夜勤者が完全分離制となっており夫々が連携しながら責任を持った支援が行われている。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所開設時に、運営者と職員が共同で、理念を作成する事で、その理念が日々のケアの実践へ反映しやすく、職員全員が統一した方針のもとにケアを実践している。	理念を事業所内に掲示しているが共有する為の具体的な取組みについては不足している。	全職員が理念の重要性を再認識する為の共有化の具体的な取組みに期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会や民生委員との交流を行い、又、中学生、高校の課外実習や民間のヘルパー養成実習、その他のボランティア等を積極的に受け入れる様努めている。	ヘルパー実習生、体験学習、三味線クラブ等積極的に受入れを行い地域との交流を行っている。実習後職員として採用の実績もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方に対する理解や支援の方法にて入居者の御家族及び関係者への働きかけは、常に行っているが、その他の地域の方に対しては至っていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に会議を開催し、ホームからの状況報告や、今後の方針等について意見交換を行っているその中で、外部委員からの提案、意見により、サービスの向上につながった面もある。	委員の方からの地域イベント情報等の案内及び現状報告が主であるが家族の代表から提案がありAEDを設置した。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議における行政の代表の委員や、生活保護受給者の担当職員とは常に情報交換を行っており、又、居宅介護支援事業者連絡協議会への職員の参加により、ホームの運営等に関し、アドバイスを頂いている。	毎回、運営推進会議へ市担当職員の出席があり情報交換は適宜行われている。松浦市の居宅介護支援事業者連絡協議会との連携も良好である。	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関は、日中常に施錠を行わずに開放しており、入居者が庭、洗濯物干し場等へ自由に行き来出来る様配慮している。</p>	<p>帰宅願望の強い利用者の入居でやむなく玄関等が施錠されていた。やむを得ない状況とは理解できるものの、一人の入居者が原因で他の利用者の自由な行動が制限される事となり、改善が必要と思われる。</p>	<p>身体拘束をしないケアの重要性を職員全員、運営推進会議で協議され早急な改善対応に期待したい。</p>
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員はスタッフ会議や日々の業務を通して、お互いのケアや接遇を確認し合い、必要があれば改善に努めている。又、入居者の心身の状態把握に努め、その意見には、素直に耳を傾ける様配慮している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>開設以来今日に至るまで活用の場面はないが、契約時や入居後の中で必要であれば、関係者に対し、提案できるよう準備に努めている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、事前にホームの概要やケアの方針について充分説明を行い、又、入居後の変更事項等については書面と面談による理解、納得を図る様努めている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内に目安箱を設置するとともに、面会の機会を利用し、意見、希望、苦情等を見聞きすることができる様声かけを行っている。又、運営推進会議の中で、家族会の代表者の方からの委員として意見等を拝聴している。</p>	<p>運営推進会議、ホームへの家族訪問時等に都度声掛けは行っている。利用料支払の為の来所時は必ず利用者、家族を交え三者で時間をとり意思疎通を図っている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のスタッフ会議をその機会として、それぞれの立場からの意見をくみ上げる場としている。又、必要があれば、代表者及び管理者との個別面談も実施している。</p>	<p>毎月の行事終了時に職員会議を行い、意見の把握に努めている。最近も、職員から利用者間の事情等に配慮した食事時の席配置変更の提案があり全員で協議の上実施された。</p>	

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者も管理者や職員と共に、業務に従事している事で、直接個々の勤務状況が把握でき、その要望もホームの改善に反映しやすくなっている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、職員の研修を積極的に奨励しており、必要があれば、面談やアドバイスをやっている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市の居宅介護支援事業者連絡協議会に加入し、職員が勉強会や、その他の事業所との交流に参加できる様支援している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の事前訪問や契約時の面談において、ホームの概要等について、充分説明を行うと共に本人からの要望、不安等を拝聴把握し、支援に反映する様努めている。又、希望があれば昼間の体験利用及び行事への参加もやっている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面談や契約時において、御家族の要望、不安等を拝聴、把握すると共に、ホームの概要や入居中の支援及び、手続き等についても十分に説明を行う様努めている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前の面談において、本人及び御家族の要望を伺うと共に、ホームが提供できる支援を説明し必要があれば、他の事業所及び医療機関を勧めている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>食堂の準備や配膳等を入居者と職員が協働して行っている。又、洗濯物干しや、衣類のたたみを手伝って頂いたり、職員の見守りの下、他の入居者のお世話をして頂いている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>季節の行事等への御家族の参加の支援を依頼すると共に、日々の暮らしの中で入居者本人にとって職員よりも御家族の力を必要とする場面においては、面会、外出等の協力をお願いし共に支えて頂いている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている</p>	<p>御家族だけではなく、入居者の顔なじみの知人や友人の方々の面会をお願いすると共に、地域の行事（お祭り文化祭等）への参加を積極的にしている。</p>	<p>利用開始時の情報、面会者からの情報、本人への随時の声掛け等により人間関係や思い出の場所等を把握し関係継続に努めている。地域の祭事等へも職員と一緒に出かけ買物など楽しまれている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士の関係を把握する事で、職員が過剰に関わる事なく本人の素直な感情判断でお互いに支え合う事ができる様に努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院等にて一時退居された方でも、本人、御家族の要望があれば再入居に応じている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>職員は日頃より入居者との関わりの中で、本人の希望、意向の把握を行い、その実現に努めている。又、職員側からも様々な提案を行う事で、豊かな入居生活を送って頂ける様配慮している。</p>	<p>ケアプラン作成の担当者を軸に、利用者の様子観察や状況に応じた言葉掛けを行い、意向把握に努め利用者夫々に応じた支援活動が行われている。</p>	

24	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や御家族に対する入居前の面談やそれまで利用されていた関係機関との情報交換に努め、入居生活の援助に活用している。</p>		
25	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個々の日々の記録や職員間の情報交換及び介護計画の活用により、現状の把握に努めている。</p>		
26	10 <p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の担当職員が本人や御家族の意向を下に介護計画を立案、スタッフ会議やミニカンファレンスにおいて、他の職員とも協議の上作成している。</p>	<p>プラン見直し時等に利用者の担当職員がモニタリングを行い、継続、・追加の計画案を管理者へ提出、それを基に、全員参加のカンファレンスを実施し、最終的には作成責任者による介護計画作成の手順が確立している。</p>	
27	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々の介護計画に沿って日々の様子や援助及びその結果について、個別記録に記載しその他の情報については、口頭での情報交換や申し送りノートを活用している。</p>		
28	<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入居者の希望に応じ、買い物支援を行ったり、定期的な床屋の来所を依頼している。</p>		
29	<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の方が参加されている踊りの慰問の受け入れや、周辺の中学校、高校の依頼に応じ生徒の課外活動の場を提供している。</p>		
30	11 <p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>大半の方が、同一のかかりつけ医の為、定期的に訪問診療を受けており、状態に応じ、随時外来受診している。</p>	<p>協力医療機関の定期的な往診がある。本人、家族の希望や状態に応じ必要時は通院の付き添いとして職員も同行している。歯科医院も不定期ではあるが往診が受けられる体制である。</p>	

31	<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム在職の看護婦が常に日々の入居者の状態把握を行い、随時他の職員との情報交換や指導に努めている。</p> <p>又、協力医療機関との医療連携体制による週1回の看護師の問診も含め、入居者の健康管理に努めている。</p>		
32	<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>定期的な訪問診療や外来受診に職員が同行し、かかりつけ医や他の病院職員との情報交換を行っており入院時も本人及び御家族の意向を尊重した上で密接に協議を行っている。</p>		
33	12 <p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>協力医療機関との医療連携体制の中で、重度化終末期対応指針を作成し、契約時、本人た御家族に看取りの支援体制について説明を行い同意を得ている。</p>	<p>入居時に終末期の対応について説明し同意書を載している。以後状態に応じ随時利用者、家族と話し合い確認を行っている。直接対応する場面の多い職員には看護師、管理者との緊急時連絡体制を確立し心理的な負担の軽減に努めている。</p>	
34	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>日々の業務において看護師の指導の下、急変時の対応について訓練を行うと共に、職員個人としても普通救命講習を受講し、入居者の急変時に備えている。又、年2回、防火訓練を実施しており事故発生等に備えている。</p>		
35	13 <p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、消防署や民間のアドバイザーの指導の下、防火訓練を行うと共に、近隣の住民の方々への協力依頼を行っている。</p>	<p>消防署立会いで年1回夜間想定訓練を実施すると共に消火器、スプリンクラー点検時に業者からのアドバイスを受けている。非常通報装置登録した近隣住民及び自治会へは設立当初に文書により協力依頼を行っているが現在は特段の案内などは行われていない。</p>	

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な親しみのある言葉かけを行っているが、常に、相手の反応に注意を払い、人格の尊重に配慮する様努めている。	慣れるまでは敬語、その後打ち解けてきたらその人に合った声掛けへと期間をおき親しみある言葉掛けに気をつけている。個人の呼びかけ時にも名字か名前かその人により配慮し外部の方や家族がいる場面では不快感のない言葉掛けを行っている。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、できるだけ本人が自らの意思を持って動く事ができるような機会をつくり、援助や指示的な言葉かけは必要最低限に留めている。	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中で、食事や入浴等に関する大まかな決まりはあるが、その他の行動については個々の入居者の判断に委ね、希望があれば可能な限り配慮している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、職員が買い物支援を行うと共に御家族とも相談の上、服装等の準備を依頼している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の入居者の能力や得意分野を生かし、調理の手伝いや配膳準備において関わって頂いている。又、食事は毎食、入居者と職員が同じテーブルを囲み家庭的な雰囲気にも努めている。	利用者と職員は同じものを同じテーブルで食事し介助が必要な利用者へはそばにいて見守りを行っている。利用者の一部は自ら下膳の手伝いも行われている。夏祭りでは敷地内テラスで楽しみながらの食事も実施されている。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューでは、個々の好み摂取能力に応じ、代替の献立や、おかゆ、キザミ食等の調理方法を工夫している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。又、定期的に歯科往診を依頼しており、入居者の摂取能力の維持に努めている。	

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>時間毎のトイレ誘導を行うと共に、個人の排泄パターンを把握し、その方に応じた誘導方法を行っている。又、尿意、便意の表出が困難な方に対しても、トイレでの排泄を試み自然排便を促す様努めている。</p>	<p>排泄パターンの把握によるトイレ誘導、定時の気がけた声掛け等により自立に向けた支援を行っている。声掛けもプライバシーに配慮した声掛けが行われている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>可能な限りトイレでの排泄を働きかけると共に、水分や食物繊維の充足等の食事面の配慮も行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴は週2回ではあるが、2ユニットで週4回お風呂を沸かし、できるだけ個々の希望に沿える様配慮している。又、皮膚の疾患への処置や清潔保持が必要な方に対しては、前記以外の場合でもシャワー浴や足浴で対応している。</p>	<p>2ユニットで週4回の入浴を各々介助者1名にて実施している。入浴拒否者には上手な声掛け誘導にて対応されている。お湯の温度、室温、体調などその人その時により行きとどいた入浴が行われている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の居室には冷暖房機器が設置しており、快適な環境で睡眠出来るよう配置している。又、夜間眠りが浅い方に対しては、職員がお茶を準備したり、話し相手を努める事で不安を取り除く様になっている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医療機関からの薬に関する指示や説明書について、常に理解、把握に努め日々の入居者の状態を確認している。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>以前、農業や調理師をされていた入居者に庭の菜園へのアドバイスを頂いたり、魚の調理を手伝って頂いている。又、個々の入居者それぞれに可能な範囲で、洗濯物干しや衣類たたみ、食事の後片付け等に参加して頂いている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>個々の入居者の希望に応じ、買い物支援を定期的に行うと共に、入居者や御家族、地域の方々からの情報を下に地元の催し物等への参加を積極的に行う様努めている。</p>	<p>希望者へは月1~2回近隣のスーパーへ衣類、食品の買い物に職員同行にて出かけている。花見など運営推進会議で情報提供があった場所へも積極的に外出している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分で金銭管理が可能の方は、職員の係わりの下、手元に持っておられ定期的に職員と共に買い物に出かけられている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望時には事務所内の電話を利用して頂いたり、手紙の投函を支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは天窓により自然光を取り入れており、玄関や和室、応接室には一年中生花が飾られている。又、廊下の壁には行事の写真や入居者、職員の作品が掲示されていて季節感を醸しだしている。</p>	<p>敷地内テラスには施設長の家族手作りによるテーブル、椅子があり行事時の食事などに活用されている。ユニット間は遮断されてなく自由に行き来が可能で、共用空間は日当たりの良い場所に配置されており、両ユニットの利用者の憩いの場所となっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テラス、応接室より静かに景色を眺められたり、庭のテーブルやマッサージチェアでくつろがれている様子が見られる。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が自宅等で使い慣れた家具や寝具、生活用品を入居後もそのまま使用して頂いている。	居室は適当な広さでベッド以外は利用者の馴染みの家具、備品が置かれ落ち着いた雰囲気作りがされている。窓の広さも採光には十分である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には段差はなく、手すりを多く設置することで一人でも各場所への移動が容易にできるよう配慮している。又、トイレ、浴室、洗面所の入り口には表札を付け居室が分からない入居者の入り口には、目印となる飾りや拡大した名札を貼っている。		
アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所開設時に、運営者と職員が共同で、理念を作成する事で、その理念が日々のケアの実践へ反映しやすく、職員全員が統一した方針のもとにケアを実践している。</p>		
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の自治会や民生委員との交流を行い、又、中学生、高校の課外実習や民間のヘルパー養成実習、その他のボランティア等を積極的に受け入れる様努めている。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症の方に対する理解や支援の方法にて入居者の御家族及び関係者への働きかけは、常に行っているが、その他の地域の方に対しては至っていない。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月毎に会議を開催し、ホームからの状況報告や、今後の方針等について意見交換を行っているその中で、外部委員からの提案、意見により、サービスの向上につながった面もある。</p>		
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議における行政の代表の委員や、生活保護受給者の担当職員とは常に情報交換を行っており、又、居宅介護支援事業者連絡協議会への職員の参加により、ホームの運営等に関し、アドバイスを頂いている。</p>		

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関は、日中常に施錠を行わずに開放しており、入居者が庭、洗濯物干し場等へ自由に行き来出来る様配慮している。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員はスタッフ会議や日々の業務を通して、お互いのケアや接遇を確認し合い、必要があれば改善に努めている。又、入居者の心身の状態把握に努め、その意見には、素直に耳を傾ける様配慮している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>開設以来今日に至るまで活用の場面はないが、契約時や入居後の中で必要であれば、関係者に対し、提案できるよう準備に努めている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、事前にホームの概要やケアの方針について充分説明を行い、又、入居後の変更事項等については書面と面談による理解、納得を図る様努めている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内に目安箱を設置するとともに、面会の機会を利用し、意見、希望、苦情等をくみ上げることができる様声かけを行っている。又、運営推進会議の中で、家族会の代表者の方からの委員として意見等を拝聴している。</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のスタッフ会議をその機会として、それぞれの立場からの意見をくみ上げる場としている。又、必要があれば、代表者及び管理者との個別面談も実施している。</p>		

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者も管理者や職員と共に、業務に従事している事で、直接個々の勤務状況が把握でき、その要望もホームの改善に反映しやすくなっている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、職員の研修を積極的に奨励しており、必要があれば、面談やアドバイスをを行っている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市の居宅介護支援事業者連絡協議会に加入し、職員が勉強会や、その他の事業所との交流に参加できる様支援している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の事前訪問や契約時の面談において、ホームの概要等について、充分説明を行うと共に本人からの要望、不安等を拝聴把握し、支援に反映する様努めている。又、希望があれば昼間の体験利用及び行事への参加も行っている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面談や契約時において、御家族の要望、不安等を拝聴、把握すると共に、ホームの概要や入居中の支援及び、手続き等についても十分に説明を行う様努めている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前の面談において、本人及び御家族の要望を伺うと共に、ホームが提供できる支援を説明し必要があれば、他の事業所及び医療機関を勧めている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>食堂の準備や配膳等を入居者と職員が協働して行っている。又、洗濯物干しや、衣類のたたみを手伝って頂いたり、職員の見守りの下、他の入居者のお世話をして頂いている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>季節の行事等への御家族の参加の支援を依頼すると共に、日々の暮らしの中で入居者本人にとって職員よりも御家族の力を必要とする場面においては、面会、外出等の協力をお願いし共に支えて頂いている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>御家族だけではなく、入居者の顔なじみの知人や友人の方々の面会をお願いすると共に、地域の行事（お祭り文化祭等）への参加を積極的に行っている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士の関係を把握する事で、職員が過剰に関わる事なく本人の素直な感情判断でお互いに支え合う事ができる様に努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院等にて一時退居された方でも、本人、御家族の要望があれば再入居に応じている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>職員は日頃より入居者との関わりの中で、本人の希望、意向の把握を行い、その実現に努めている。又、職員側からも様々な提案を行う事で、豊かな入居生活を送って頂ける様配慮している。</p>		

24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や御家族に対する入居前の面談やそれまで利用されていた関係機関との情報交換に努め、入居生活の援助に活用している。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個々の日々の記録や職員間の情報交換及び介護計画の活用により、現状の把握に努めている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の担当職員が本人や御家族の意向を下に介護計画を立案、スタッフ会議やミニカンファレンスにおいて、他の職員とも協議の上作成している。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々の介護計画に沿って日々の様子や援助及びその結果について、個別記録に記載しその他の情報については、口頭での情報交換や申し送りノートを活用している。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入居者の希望に応じ、買い物支援を行ったり、定期的な床屋の来所を依頼している。</p>		
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の方が参加されている踊りの慰問の受け入れや、周辺の中学校、高校の依頼に応じ生徒の課外活動の場を提供している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>大半の方が、同一のかかりつけ医の為、定期的に訪問診療を受けており、状態に応じ、随時外来受診している。</p>		

31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム在職の看護婦が常に日々の入居者の状態把握を行い、随時他の職員との情報交換や指導に努めている。</p> <p>又、協力医療機関との医療連携体制による週1回の看護師の問診も含め、入居者の健康管理に努めている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>定期的な訪問診療や外来受診に職員が同行し、かかりつけ医や他の病院職員との情報交換を行っており入院時にも本人及び御家族の意向を尊重した上で密接に協議を行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>協力医療機関との医療連携体制の中で、重度化終末期対応指針を作成し、契約時、本人た御家族に看取りの支援体制について説明を行い同意を得ている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>日々の業務において看護師の指導の下、急変時の対応について訓練を行うと共に、職員個人としても普通救命講習を受講し、入居者の急変時に備えている。</p> <p>又、年2回、防火訓練を実施しており事故発生等に備えている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、消防署や民間のアドバイザーの指導の下、防火訓練を行うと共に、近隣の住民の方々への協力依頼を行っている。</p>		

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な親しみのある言葉かけを行っているが、常に、相手の反応に注意を払い、人格の尊重に配慮する様努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、できるだけ本人が自らの意思を持って動く事ができるように機会をつくり、援助や指示的な言葉かけは必要最低限に留めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中で、食事や入浴等に関する大まかな決まりはあるが、その他の行動については個々の入居者の判断に委ね、希望があれば可能な限り配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、職員が買い物支援を行うと共に御家族とも相談の上、服装等の準備を依頼している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の入居者の能力や得意分野を生かし、調理の手伝いや配膳準備において関わって頂いている。又、食事は毎食、入居者と職員が同じテーブルを囲み家庭的な雰囲気にも努めている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューでは、個々の好み摂取能力に応じ、代替の献立や、おかゆ、キザミ食等の調理方法を工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。又、定期的に歯科往診を依頼しており、入居者の摂取能力の維持に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎のトイレ誘導を行うと共に、個人の排泄パターンを把握し、その方に応じた誘導方法を行っている。又、尿意、便意の表出が困難な方に対しても、トイレでの排泄を試み自然排便を促す様努めている。		

44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>可能な限りトイレでの排泄を働きかけると共に、水分や食物繊維の充足等の食事面の配慮も行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴は週2回ではあるが、2ユニットで週4回お風呂を沸かし、できるだけ個々の希望に沿える様配慮している。又、皮膚の疾患への処置や清潔保持が必要な方に対しては、前記以外の場合でもシャワー浴や足浴で対応し</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の居室には冷暖房機器が設置しており、快適な環境で睡眠出来るよう配置している。又、夜間眠りが浅い方に対しては、職員がお茶を準備したり、話し相手を努める事で不安を取り除く様になっている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医療機関からの薬に関する指示や説明書について、常に理解、把握に努め日々の入居者の状態を確認している。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>以前、農業や調理師をされていた入居者に庭の菜園へのアドバイスを頂いたり、魚の調理を手伝って頂いている。又、個々の入居者それぞれに可能な範囲で、洗濯物干しや衣類たたみ、食事の後片付け等に参加して頂いている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>個々の入居者の希望に応じ、買い物支援を定期的に行うと共に、入居者や御家族、地域の方々からの情報を下に地元の催し物等への参加を積極的に行う様努めている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分で金銭管理が可能な方は、職員の係わりの下、手元に持っておられ定期的に職員と共に買い物に出かけられている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望時には事務所内の電話を利用して頂いたり、手紙の投函を支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは天窓により自然光を取り入れており、玄関や和室、応接室には一年中生花が飾られている。又、廊下の壁には行事の写真や入居者、職員の作品が掲示されていて季節感を醸しだしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テラス、応接室より静かに景色を眺められたり、庭のテーブルやマッサージチェアでくつろがれている様子が見られる。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が自宅等で使い慣れた家具や寝具、生活用品を入居後もそのまま使用して頂いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には段差はなく、手すりを多く設置することで一人でも各場所への移動が容易にできるよう配慮している。又、トイレ、浴室、洗面所の入り口には表札を付け居室が分からない入居者の入り口には、目印となる飾りや拡大した名札を		
アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)			1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)			1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)			1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない